Orthodontists' Group of Central Japan

中日本矯正歯科医会は東海三県（愛知・岐阜・三重）の矯正歯科開業医によって作られている会で、東海地区の矯正歯科専門開業医のほぼ95パーセントが所属しております。

中日本矯正歯科医会には専門の教育を十分に受けた矯正歯科開業医だけが加入しています。

また、患者さんに提供する治療レベルを向上させるべく、年に数回会合を開催し、矯正治療の向上に関わる情報交換や、症例検討会等を行っております。

INFORMATION

日本矯正歯科学会市民公開講座

【早めの歯ならびチェック“良い歯ならびと健康”】

日時：平成14年10月22日、午後1時30分～4時

場所：愛知県芸術文化センター（名古屋市中区栄）

演者：筒井照子／
日本矯正歯科学会理事（北九州市）
【噛み合わせと生活習慣】

居波　徹／
日本矯正歯科学会学校歯科保健委員会委員
（宇治市）
【「8020」のための第一歩は良い歯ならびから】

司会：後藤滋巳／
日本矯正歯科学会理事
（愛知学院大学歯学部歯科矯正学講座教授）

参加者募集：180名．7月を予定

http://www.ortho.gr.jp/

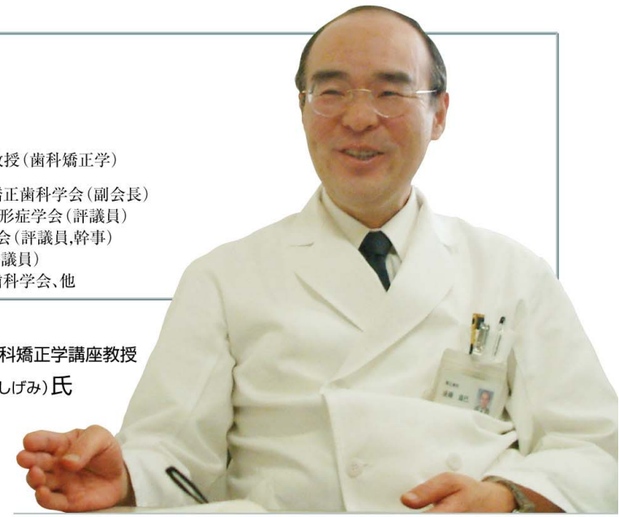
〒460-0003 名古屋市中区錦2-9-27 名古屋繊維ビル3F
TEL 052-201-6480
中日本矯正歯科医会事務局

関連するホームページは…

愛知県歯科医師会　http://www.nhk-chubu-brains.co.jp/ad8020/
日本矯正歯科学会　http://www.jos.gr.jp/
日本臨床矯正歯科医会　http://www02.so-net.ne.jp/~hahaha/

中日本矯正歯科医会
Member：Orthodontists' Group of Central Japan

歯の矯正治療は、わが子の将来を笑顔にすること。



今回お応えいただいた
愛知学院大学歯学部歯科矯正学講座教授
後藤　滋巳（ごとうしげみ）氏

学歴、職歴

1977年3月	愛知学院大学歯学部卒業
1988年6月	愛知学院大学歯学部講師（歯科矯正学）
1992年7月	愛知学院大学長期在外研究員（93年6月まで）（カリフォルニア大学サンフランシスコ校客員講師）
1994年12月	愛知学院大学歯学部助教授（歯科矯正学）
1996年10月	愛知学院大学歯学部教授・大学院歯学研究科教授（歯科矯正学）

学会活動　日本矯正歯科学会（理事、評議員）、近畿東海矯正歯科学会（副会長）
日本口蓋裂学会（評議員、編集委員）、日本顎変形症学会（評議員）
日本顎関節学会（評議員）、愛知学院大学歯学会（評議員,幹事）
日本咀嚼学会（評議員）、日本歯科教育学会（評議員）
日本スポーツ歯科学会（評議員）、アメリカ矯正歯科学会、他

最近、子どもの歯並びや、咬み合わせの悪い「不正咬合（ふせいこうごう）」を心配し、矯正治療を考える親が増えてきている。そこで、矯正治療とはどんな治療か。治療時期はいつが望ましいか。そして効用は何かなどなど。愛知学院大学・歯学部歯科矯正学講座の後藤滋巳教授にいろいろ伺ってみた。

Q そもそも「不正咬合」とは、どんな症状のことでしょうか？

A よく知られているのは、「出っ歯」と呼ばれる上顎（じょうがく）前突、「受け口」といわれる下顎（かがく）前突ですが、このほか歯がばらばらに並ぶ叢生（そうせい）、奥歯をかんだ状態で前歯が開いてしまう開咬（かいこう）、逆に、前歯が重なってしまう過蓋（かがい）咬合などの種類がありますね。

Q そうなると、どんな影響が出るのでしょうか？

A 歯並びが悪いと、咬み合わせがうまくいきません。そしゃくした食べ物もきちんと流れなくなり、虫歯や歯周病の原因にもなります。また、咬み合わせが部分的ですと、一定の場所に荷重がかかりあごが痛くなることもあります。人によって個人差はありますけどね。不正咬合は見た目という表面的なことより、健康面に影響が出てくることが心配ですね。

Q では「不正咬合」になる原因は、なんでしょうか？

A 子どものあごが小さくなったとか、食生活の変化とかさまざまな原因が考えられますが、不正咬合になるには子どもの癖とも密接な関係がありますね。ほうづえをつく、指しゃぶりをする、舌を出すなど、そういった癖があるといつも同じ場所に力がかかり、あごの骨格をゆがめたり歯並びを悪くします。この点を、お父さんお母さんは、知っておくことが大切で、そういう癖があったら上手に直すようにしていただきたいですね。

Q すると矯正治療は、いつ頃始めたらいいでしょうか？

A 受け口は、お子さんの乳歯が生え揃う3～4歳ごろに、その他の不正咬合は6～7歳ごろにお気づきになられるお父さんお母さんが多いようです。歯並びなどで気になることがあったら、とりあえず専門の先生に相談してみてください。そして、その時すぐに治療を始めるのか、もっと後でもよいのかを判断します。一般的にいって、あごの骨組みに問題がある場合は、早めに始めたほうが望ましいようです。

Q 親が不正咬合を見つけるには、どうしたらいいでしょうか？

A 出っ歯や受け口はすぐわかりますが、それ以外の不正咬合は気づきにくいものです。3歳児検診や就学前検診で歯科医から指摘を受け、驚かれることもあるでしょう。自宅ではお子さんが歯磨きをした後で磨き残しのチェックと同時に歯の並び方やはえかわりをチェックされるとよいですね。乳歯から永久歯にはえかわる6～7歳ごろからは特に気をつけてみてあげてください。何かおかしいと思ったら、この場合も専門医に相談してください。

Q 矯正治療というのは、どういうことをするのですか？

A 矯正のわかりやすい一例をあげましょう。顔や頭を作っている構造物の中に上顎と下顎がある。そして、歯は歯槽骨（しそうこつ）という土台の上に並んではえています。ですから土台が普通の大きさでも、歯が大きすぎるとちゃんと並びきらない。その逆だと、こんどはすき間ができてしまう。これだと当然、咬み合わせがうまくいきません。これを矯正して上顎と下顎のバランスを保ち、口腔機能をスムーズにし、そしゃくがうまくいくようにすることです。

Q 健康な歯まで抜かれるのではと、心配する子もいますが？

A 無条件に全ての場合で歯が抜かれるわけではありません。歯が並ぶ土台となるあごの大きさに比べ、歯が大きすぎたり、本数が多すぎたりすると上下の歯はバランスよく噛み合うことができません。このようなときには、あごの成長を促すか、歯を抜くことによって、バランスをとることになります。逆に言えば、全ての場合において無条件で歯を抜かなくても直せられるようなことも決してありません。いずれにしても、何の相談もなく、歯が抜かれてしまうようなことはありません。

Q 最近、矯正装置をつけた人をよく見かけるようになりましたが？

A 良い歯並びの重要性に対して理解が深まってきたのを感じています。以前は、矯正装置をつけていていると、からかわれて嫌な思いをするなどと言われていましたが、最近では、そのような話を聞くことが本当に少なくなりました。これからは、もっと気軽に矯正治療をうけることができるようになるでしょう。

Q 矯正治療は「よい笑顔をつくるため」。と先生はおっしゃっていますが？

A 虫歯の治療と違って矯正治療は、患者さん自身がやることがいっぱいあります。歯を移動する場合は4～5年、あごと歯を矯正していく場合は10年ほどかかる。この間、自分で治ろうという気持ちと努力が求められる。これに対して矯正医は、治療のノウハウを提供するなどお手伝いをするわけですね。ですから治った時には、患者さんは自分で頑張ったという達成感が生まれます。それは、精神的にも肉体的にも機能的にも、将来にわたって健康な状態をつくれたという満足感。ですからお父さんお母さんにとって矯正治療は、わが子の未来によい笑顔をつくってあげることといっても過言ではありません。

Q 最後に、安心して治療を受けるには、どこへ行けばよいのでしょうか？

A 矯正歯科治療を専門的に扱っている大学病院の矯正科または矯正歯科医院をお勧めします。矯正歯科治療は患者さんと先生との長いお付き合いとなるので、信頼できる関係がとても大切です。また、転居の可能性のある場合には前もって、転院先の紹介を受けることができるか確かめておきましょう。この地方には、中日本矯正歯科医会という矯正専門医の団体があります。この会員は、日本矯正歯科学会の認定をうけ、日本各地および諸外国への転院先紹介も行っています。

空隙（くうげき）歯列の症状

過蓋（かがい）咬合の症状

開咬（かいこう）の症状

叢生（そうせい）の症状

下顎（かがく）前突の症状

上顎（じょうがく）前突の症状